

JICAパートナーシッププロジェクト「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化」キックオフワークショップをマレーシアで開催しました (2018/6/29)

テーマ：国際連携、マルチハザード、防災人材育成
 場所：マレーシア シャーアラム

2018年6月より、当研究所は、マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院防災科学研究センター（MJIT-DCCP）、マレーシア スランゴ州防災課と協力し、JICA パートナーシッププロジェクト「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化」を開始しました。このプロジェクトは、スランゴ州のモデル地域において、災害リスク理解に基づくコミュニティ主体の防災体制を確立することを目的としています。

6月29日に、本プロジェクトのキックオフワークショップが開催され、マレーシア国家災害管理庁、市民防衛局、スランゴ州防災課、消防局、マレーシア工科大学、その他、マレーシアの様々な大学、NGO、政府の防災関連機関、メディアなどから約90名が参加しました。当研究所からは、今村文彦所長（津波リスク研究部門）、泉貴子准教授（地域・都市再生研究部門）が参加しました。今村所長は、開会式での挨拶、「東日本大震災の経験と復興」に関する基調講演を行い、当プロジェクトのプロジェクトマネージャーを務める泉准教授は、プロジェクト概要について発表しました。その他、富山県立大学（前災害科学国際研究所助教）の呉修一准教授に「洪水ハザードマップ」についてご発表いただきました。また、スランゴ州防災課のぜひ日本の自治体が行っている防災活動について学びたいとの要望から、仙台市から2名にご参加いただき、仙台市危機管理室防災計画課 鈴木知基課長に「仙台市の防災対策：東日本大震災からの復興と洪水対策」について、防災環境都市・震災復興室 金澤利香主査に「仙台市の防災対策」についてご発表いただきました。スランゴ州は洪水と地すべりが主な災害となっており、今後4年間に災害リスク分析、スランゴ州政府とコミュニティの人材育成、コミュニティによる自主防災活動の実施などの活動を行います。

また、前日の28日にはスランゴ州の緊急オペレーションセンター、洪水対策トンネル、マレーシア工科大学を訪問し、マレーシアの防災・対応施設を見学するとともに、意見交換を行いました。マレーシア工科大学内には、当プロジェクトのプロジェクトオフィスを設置し、今後そのオフィスを拠点として活動していきます。



スランゴ州政府訪問



洪水対策トンネル視察



マレーシア工科大学との意見交換



プロジェクトオフィス

文責：今村文彦（災害リスク研究部門）、泉貴子（地域・都市再生部門）
 （次頁へつづく）



今村所長基調講演



JICA マレーシア所長、政府関係者、今村所長



泉准教授発表



プロジェクトチーム